

臨床検査薬理学

責任者：柴田 佳太
学年・学期：第2学年・後期

単位数：1単位(30時間)

◆一般目標(GIO)

患者さんとの薬を通じた関わりを深められるようになるために、感染症治療薬を中心に、薬理作用、作用機序、主な副作用を説明し、その適応となる疾患における概要を理解する。

◆到達目標(SBOs)

1. 薬が人体に作用する仕組みおよび体内での挙動について説明できる。
2. 薬の相互作用および薬効に及ぼす影響について説明できる。
3. 代表的な疾病について説明できる。
4. 代表的な治療薬の作用機序について説明できる。
5. 代表的な治療薬の効能効果・副作用について説明できる
6. チーム医療に於いて、臨床検査技師の果たすべき役割について述べる。

◆学習方法

講義は配布資料を用いて進める。講義内容についてはなるべく時間内に理解し、理解できなかつた箇所も直ちに復習し、期末試験に備えておくこと。
また、本授業と並行して生物学・生理学・生化学などの基礎知識も復習・定着するよう心掛けること。

◆評価方法

出席、授業態度、を加味し、期末試験(後期定期試験)により総合的に評価する。

◆教科書

配布資料

◆参考書

- ・系統看護学講座 専門基礎分野 『薬理学 疾病のなりたちと回復の促進③』
吉岡 充弘 他著 (株)医学書院
 - ・わかりやすい薬理学 第3版
安原 一、小口 勝司 他著 ニューヴェル ヒロカワ
- その他、必要に応じ講義中に適宜紹介する

◆教員紹介

担当教員は大学での教育経験に基づいて、チーム医療に貢献する優れた臨床検査技師養成に向けた授業を展開する。

回数	項目	講義内容	担当
1	薬理学総論 (1)	薬物とはなにか、薬物の名称、薬物の使用目的 薬理学とはなにか、薬理力学、薬物動態学	柴田
2	薬理学総論 (2)	薬物動態学的相互作用、薬力学的相互作用、 薬物の用量による影響、薬物の副作用等	〃
3	神経の構造と機能 自律神経系作用薬	神経の分類、自律神経の役割、 交感神経作用薬、副交感神経作用薬	〃
4	筋弛緩薬 鎮静睡眠薬 向精神薬	筋弛緩薬・鎮静睡眠薬・向精神薬に関する 病態生理・効能効果・作用機序・副作用	〃
5	抗パーキンソン病薬 アルツハイマー病治療薬 利尿薬	抗パーキンソン病薬・アルツハイマー病治療薬 ・利尿薬に関する病態生理・効能効果・ 作用機序・副作用	〃
6	循環器系作用薬 呼吸器系作用薬	循環器系作用薬・呼吸器系作用薬に関する 病態生理・効能効果・作用機序・副作用	〃
7	中間まとめ	1～3 回目までの講義内容に関して、 演習形式でまとめを行う。	〃
8	中間まとめ	4～6 回目までの講義内容に関して、 演習形式でまとめを行う。	〃
9	消化器系作用薬(1)	消化管運動機能調整薬・消化性潰瘍治療薬・ 制吐薬に関する 病態生理・効能効果・作用機序・副作用	〃
10	消化器系作用薬(2) 糖尿病治療薬	下剤・止瀉薬・糖尿病治療薬に関する病態生理 ・効能効果・作用機序・副作用	〃
11	脂質異常症治療薬	脂質異常症治療薬に関する病態生理・効能効果 ・作用機序・副作用	〃
12	抗炎症薬 抗アレルギー薬 抗血栓療法薬	抗炎症薬・抗アレルギー薬・抗血栓療法薬 に関する病態生理・効能効果・作用機序・ 副作用	〃
13	抗感染症薬	抗感染症薬に関する病態生理・効能効果・ 作用機序・副作用	〃
14	まとめ	9～13 回目までの講義内容に関して、 演習形式でまとめを行う。	〃